

山梨県立中央病院総合診療科・感染症科は、初期研

やまし医療

最前線

県立中央病院から

〈316〉



日向佑樹医師



吉川美佐子総合診療科・感染症科医長

修を終えた後の後期研修の医師を受け入れてきた。病院での学びを深めた若手医師たちは、県内外で地域医療の要として活躍している。同科の吉川美佐子医長は「患者が住み慣れた地域

でできる力がより求められていく。最新の医学知識だけではなく、地域コミュニケーションとの関わり方や予防医学、福祉、リハビリなど幅広い知識が必須だとい

後、飯富病院に勤務した。風邪や胃腸炎など軽い症状から末期がんの患者まで診察した。「地域住民の中には移動手段が限られ、一つの病院しか頼れない場合もある」。専門分野

数の健康問題に向き合うため、「家族の介護の負担が大きすぎないか」「子育ての悩みを抱えていないか」など、病気の要因となり得る患者の生活環境や心理面の背景も探る視点が欠かせないという。訪問看護師やリハビリスタッフなどのチーム医療の調整役も担っている。

総合診療科で後期研修

幅広い知識地域の要に

で質の高い医療を受けられることが大切だ」と力を込める。

これまでに同科で後期研修を受けた医師は14人。飯富病院（身延）や都留市立

にかかわらず診察する総合診療医の重要性を説く。

日向医師は「総合診療医として病気を治すことだけではなく、病気があったとしても生活を維持できる環境を整えたい」と説明。「その人らしい生活をいかに守るか、常に考えながら診療に努めている」と話している。

高齢化に伴い複数の病気がある地域住民が増え、小規模の病院に勤務する総合診療医には、特定の臓器だけを診るのではな

く、さまざまな症状に対応

吉川医長は、同科で全身に起きるさまざまな感染症の症例などを学んだ

また、同科の後期研修を受けた露木耳鼻咽喉科医院（甲府）の日向佑樹医師は、慢性的な病気を抱えて自宅で生活する患者や高齢者の訪問診療に力を入れる。複

く、さまざまな症状に対応

症の症例などを学んだ

訪問診療に力を入れる。複

Ⅱ第2、4火曜日に掲載します